



『クリストファー』とは

学校法人聖隷学園 理事長 長谷川了

二〇〇一年から聖隷学園高等学校は聖隷クリストファー高等学校に校名が変わります。クリストファーについて説明します。

クリストファー（キリストを運ぶ者の意）は三世紀頃の半伝説的殉教者の名前です。シリアの山奥に森から切り出すどんな大木でも背負うことのできる怪力の若者がいました。彼は世界で一番強い人に仕えたいと、都に出て王様の家来になりました。しかし、「悪魔」という言葉が出るたびに怯える王様をみて、一番強いと信じていた王様がこわがる悪魔という人は、さらに強いにちがいないと考え、悪魔の家来になりました。悪魔の強さにつかり感心して、彼は悪魔と共に悪いことを重ねました。ある日、悪魔と彼が連れだつて歩いてた道端に小さな教会堂があり、十字架がたっていました。悪魔はそれを見ると、ぶるぶると震え遠まわりをしました。それを見てなぜかと悪魔に尋ねると、「おれは世界で一番強いが、たった一つの例外がキリストだ」と言います。彼はキリストの弟子になりたい

と願い、交通の一番多い街道の川のほとりに住みついて、川の渡し守となつて、キリストの通りかかのを待ちました。

ある嵐の夜、少年が今夜川を渡つていかねばならない急用があると言います。彼は決心して濁流を渡つていくと少年がぐんぐん重くなりました。やっとの思いで向こう岸にたどりついて問いました。「今まで何千人もの人を背負つてこの川を渡つたがあなたほど重い人はなかった」。少年は答えました。「わたしは世界のすべての罪と苦しみを負っているのですから」「えっ、ではあなたは」「私はキリストです」。彼が振り向くと少年の姿はありませんでした。このよつな伝説がライン河周辺にあります。

友人・病人・障害者やお年寄り（隣人）の不安や苦痛、悲しみを理解し、クリストファーがキリストを大切に背負つたように、これらの人々を大切に大事にする人がこの学園から育つて欲しいとの願いから聖隷クリストファーと命名することにしました。

発行所 / 学校法人聖隷学園
浜松市三方原町3453
電話 / 053 436 5311
〒433-8558
発行責任者 / 長谷川了

聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」
(ヨハネによる福音書二一章三四節)

創立理念の継承とコース再編

聖隷学園高等学校 校長 秋葉保

加速的変化を呈する世紀の変わり目と新世紀を見据えたとき、本校の果たす役割は実に大きいものがあります。そこで私どもは創立理念の確かな継承とその具現を基に、「一人一人の生徒を大切に育て、伸ばし、高める」教育に全力を注ぎ、さらなる充実発展の首を各コースの実態に立脚した積み上げを図っています。

特に生徒やその保護者の希望進路達成の保障を重視すると共に本校創立的の一つでもある医療・福祉分野の実践者を育てる使命を強く踏まえ、以下のように四つのコースを新たに構築しました。その根底には今まで実現を見ることなかった「本校の理念」を継承した医師・薬剤師・弁護士や社会有為の指導者を育成する使命的な願いがあります。

この四つのコースは二〇〇〇年度から実施していますが、従来の二つのコースは存続しつつ、内容的には新コースに結びつきます。

特別進学コース

国立大学・難関と言われている私立大学への進学を目指し、総合予備校との連携のもと一人一人の生徒

に結びついた実力アップの進学指導を行い目標達成に努めます。

看護・福祉進学コース

聖隷グループの病院や福祉施設との連携のもと、人を支え、人に支えられる大切さを学び、聖隷学園の看護大学・短期大学を中心に看護・福祉系の大学・短大へ全員が進学できるように万全の体制でサポートします。

長期留学コース

留学生派遣二十一年の実績を最大限に生かし、アメリカ・カナダ・オーストラリア等の姉妹校や提携校へ本校の派遣留学生として約一年間、外国での留学生活をします。

生徒の希望実現に向けて英語はもとより留学生活に対する準備教育など計画的に実施します。留学後は国内外の大学へ進学します。

総合コース

充実した学習指導で基礎・基本の確実な習得と、情報・ボランティア・部活動等の諸活動により、自己発見と伸長を図り、大学その他希望進路の達成に全力を注ぎます。

聖書のことば

聖隷学園 宗教主任
聖隷クリストファー看護大学
教授 佐柳 文男



右上の聖句は、最後の晩餐の席でイエスが弟子たちに与えた「新しい掟」である。私たちは命じられて人を愛するようになる。だが、純粋な愛は命令されなくとも、私たちのうちから自然にわき上がってくるものではないのか。命じられて愛するのではなく、こもった愛にならないのではないか。

たしかに私たちは生まれつき愛することを知っている。しかしそれはどんな愛だろうか。それは「自分の利益を求め、愛などではないか。自分を豊かにし、自分を満足させるために人やものを愛する。そのためにも愛の対象は美しいものでなければならぬ。対象を所有することによって、自分をより良いものにしてやうとする。」

他方で、私たちは愛されることを求める。しかし人間の自然な愛の対象になるためには、私たちは美しいもの、愛すべき者でないといけない。私たちの中に、誰にでも愛されるような、心もからだも美しい人がいるだろうか。

神は、そしてイエスは、美しくない者も愛してください。イエスは自分の利益をもとめない。「キリストも御自身の満足はお求めになりませんでした」(ロマ 一五・三)。自然な愛とは異なる本当の愛がそこにある。



高等学校新コースの目指すもの

飛翔

特別進学コース部長 近藤房武

特進コースは一期生二十三名を迎え、順調なスタートを切りました。

これまでの覚え込む学習から脱皮し、納得するまでとことん思考する授業に戸惑いながらも、生徒は自分の力で考え、課題を解決していく学習の楽しさに眼を輝かせ始めています。

高い目標を掲げ、学問の神髄が腹の底に落ちるまで追求する、そして自発的な日々の学習努力を重ねる、そんな真剣な生徒の姿が輝いて見えます。

来春の特進コース二期生では、意欲

に燃える生徒五十名の入学を実現し、さらにレベルアップを図りたいと思います。

倉橋先生を始めとするクラ・ゼミの講師陣と本校の教員が力を合わせ、研さん努力を続けていけば、東大・京大をはじめとする旧帝大と、公立大医学部に合格者を出すのもそう遠い先の話ではないという感触を覚えます。

医療福祉をはじめ各分野の優れた人材育成の使命を担い、今歩み始めた聖隷高校特進コースへのご理解とご支援をお願いします。

人を思いやる心

看護・福祉進学コース部長 佐藤 稔

今春、看護・福祉進学コースの一年級、三十四名(女子三十一名・男子三名)が誕生しました。将来、医療・看護・福祉系の大学、短期大学への進路希望をもった生徒達です。

その内の多くが、併設校の聖隷クリストファー看護大学と聖隷学園浜松衛生短期大学を希望しています。このコースでは、たくさんの出会いを通して、人を支え、人に支えられる大切さを学びます。

『たくさんの貴重な体験ができ、いろいろな活動を通して、多くの事を学ぶことができます。』
『中学の時、看護婦になるならこの高級を育てる努力をしています。』

『国際人』となるために

長期留学コース部長 茨城久一郎

『国際人』とはどのような人のことでしょうか? 背が高く、英語で外国の人と活発に話せ、コンピュータを使える人でしょうか。本校二〇余年間の国際教育交流の経験から次のようにいえます。自立している。相手を受け入れる柔軟な心を持つている。倫理観を持つている。

学問への基礎的理能力がある。道具としての英語とコンピュータを使う。

長期留学コースは、アメリカ・カナダの二十一の姉妹校とオーストラリアへ留学するコースです。そして『国際人』としての資質を磨くために、心と姿勢・英会話能力を磨くために週一回の「準備プログラム」と「LHR」、週八時間の英語の授業、長期休みを利用した「体験学習」をプログラム化しています。特に英語はコ

進路の多様化に心えて

総合コース部長 高力 淳

最近の生徒達は、その進路の二一ズは非常に多様化してきております。しかし、その反面、自分は何をしたのか?といったような疑問を持つ生徒が増えてきております。我々教職員はそのような生徒達が自らの進路目標を見定め、実現していく手助けをしていきたいと考えております。

簡単に申しますと、「自分探しの支援」ということになるとおもいます。これからの時代、生徒と教師が共に成長していくという姿勢が大切になるうかと思っております。

本コースでは、理系進学、文系進学、総合進学、総合教養と大きくわけて四つのクラスがあります。いずれのクラスにおいても、「キリスト教」という大きなベースのもとそれぞれ進路目標に沿った様々な体験学習を取り入れていきたいと考えております。さらに、高校と専門学校とが協力して高専一貫の情報教育プログラムを検討していきたいと考えております。これについては来年度より実施していきたいと思っております。

高等学校の人事・進路状況

鈴木先生ご苦勞様でした
鈴木先生こと鈴木副校長が、本年三月末をもってご勇退になりました。先生は一九八四年九月、学園創設者である長谷川保からの強い要請で本校の教頭(後に副校長)として着任以来、保健体育科の授業をはじめ、運動部活動の振興に対し、並々ならぬご努力をなされ、本校独自の「スポーツ憲章」を創案されたほか、生徒一人ひとりの特徴をよくつかみ取られ、徹底して伸ばす教育を実践されました。また、教職員の服務に対し、時には厳しく、それでいて柔軟に指導していただき、私たち教職員は安心して伸び伸びと勤務することができました。今後は、参与として側面からご指導して下さいませ。

二〇〇〇年度人事について
高等学校においては、副校長に鈴木基夫先生(元磐田南高教頭)、教頭に杉本主次先生(前教務主任)が就任し、進路指導の一層の強化と、校舎移転に向けた新しい学校づくりの期待が寄せられています。

一九九九年進路の特徴
進学は大学希望者の八割が希望を達成することができました。資格取得のための学校選びが顕著でした。看護・医療・福祉系への進学は三十九名でした。厳しい就職戦線でしたが、学校紹介の就職率は一〇〇%でした。

クラ・ゼミとの業務提携と今後の展望

今年度より高等学校に新設された特別進学コースの指導力アップのため、総合予備校「クラ・ゼミ」と業務提携してから二ヶ月が過ぎました。この二ヶ月を振り返り、長谷川了（学校法人聖隷学園理事長）、秋葉保（聖隷学園高等学校校長）、鈴木基夫（聖隷学園高等学校副校長）、倉橋義郎・総合予備校クラ・ゼミ代表の四氏の間で会談の席が設けられました。



副校長：本校では改革の一つとして、この四月から地元の総合予備校のクラ・ゼミと提携することになりました。まず最初に理事長、この業務提携の目的とどのような期待を寄せられているかという点から、ちょっとお話ししたいと思います。

理事長：まず、高等学校を今の野球場の近くに移動するに当たって、将来的なビジョンが必要だということ、新しい体質の、将来に希望の持てるものにしていきたいということです。私共の学校は元々、聖隷で働く人を養成したいということから出発しています。例えば病院は、お医者さんをはじめ五十種類前後の専門職者の集団ですから、その中であらゆる職種に進めるような人材を、この高校から輩出した。また、聖隷は世の世に対し、色々

な意味での改革を先取りしてやって参りましたから、聖隷の精神が多くの分野で十分に発揮されるような、世の中で活躍できる人物を作り出したい。しかし、いわゆる難関大学に進む人を養成するという面が私共の弱点でした。それをクラ・ゼミさんと業務提携することによって切り開きたい、というのが元々の出発点でした。

副：倉橋先生、特進コースで「教員I」をもたれているわけですが、生徒や授業の様子などが、生徒の熱さ思いというのがどのように先生に伝わっているか、ということをお話しただければと思いますが。

倉橋：難関大学にいかにして生徒を入れるかという期待に添えて我々が教壇に立っているわけですが、それ

を実現するには「深く考えさせる」と何がより必要です。一つの問題をどれくらい深く、自分の考えで取り組めたかというのが、難関大学に入る大きなコツだと思うんです。知識の寄せ集めの記憶中心の勉強ではなく、出題された問題の主旨を読みとったり、捉え方を日頃の授業でやっていかないと、実際の試験では解けないまま時間が過ぎてしまふ。論理的な思考や分析なくして高得点は期待できないと考えています。僕のクラスにいる聖隷の生徒達は基本的に真面目で、真摯な取り組みを見せてくれて、有望な生徒達だということを確認できましたし、情熱を持ってこちらに向かってくれています。だから後は我々の指導次第ですね。それがこれから問われてくるわけですから、ある意味で恐いというか、過去の経験が試される時期なのかなと。

副：やっぱり三年間を見通すのは大変でしょう。それで、中間・期末テストの成果と、それから外部の模擬試験がありますよね。その辺りはどうお考えでしょうか。

倉：教師の基本的な役目として、担当教科で対外試験をやった場合に生徒がどのくらい点数が取れるかという見通しができないといけないと思うんです。それができて、今度は実際の試験で何点くらいこの生徒が取れるのか、一応頭の中に入れて授業にのぞまないとけない。それに実際の試験はそれぞれの大学が独自で作成しておりますから、その大学に合う、対応できる能力も養っていかなくない。そうすると、教師の眼力、その生徒の学力を讀む力っていうものが非常に重要な

役割を果たしてくる。しかも試験は複数科目出るわけですから、一科目だけの評価では可否の判断が難しい。ですから教師間での意思統一も必要になってきます。一人の生徒に対して皆の意見を集積して、個々の生徒の実力を判断していく作業が必然的なものになっていくはず。

校長：そういう点では、週に一度、教科担当者がチームを組んで、生徒に照準を合わせるということと、教師集団の意思形成を同時にやっています。今その途上であって、こうした鋭い意見というのは大変ありがたいな。お互いに切磋琢磨して、眼力を共に磨いていくことができれば、充分生徒さんにお応えできるのではないかと。

副：その中で特にクラ・ゼミの先生方に勉強させられたのは、生徒を早く理解すること。一週間くらいで生徒の性格まで覚えると、それは確かに本校の先生方にとっては大研修だなと感じました。

理：業務提携は先生達にも大きな影響を与えるということですね。

副：ええ。そこで倉橋先生、学校に対して色々ご希望があると思うんです。そのご希望をここで言っていたらどうですか、この提携に花が咲くようにということ。

倉：元々、学校と塾ではよって立つ土壌が違いますから、どうしてもお互いが排他的になりがちなんです。この学校にはそれがなかった。先生方は何かをこちらから学ばうという謙虚な

姿勢で、生徒のことを一生懸命考えていらつしやいます。そういう意味では非常にやりやすい。ですから、要望と言ってもないんです。結局、一人の生徒を育てていく過程で、いくつもの越えなくてはいけないハードルがあって、その時にチームワークを組んでいけることが教師の間では何より大切なと思いますから。

理：そのチームワークの構成メンバーはやはり、本校の先生、クラ・ゼミの先生、生徒、保護者と。こういうことですね。



長谷川 了

倉：そうですね。やっぱり保護者の方の協力も必要だと思います。どうしても受験という閉鎖的で、青春が勉強だけで真つ暗だとか、そういうイメージがありますよね。でもそれは全く違つと思うんです。さっき言った「深く考える」ことで、今までと違う世界を知る喜びがあるわけですし、自分との戦いつつことは、言い換えれば自己鍛錬できる、そういう場でもあるんです。そうやって良い方に解釈してもらいたいと思います。それから、生徒同士で、分からない問題を教え合つたつて良いわけです。疑問点を議論し合つたつていいんです。そういう中で友情が芽生えていくと思うんです。それを今僕は意識してやってるんです。そういうわけで、生徒同士、教師同士、

教師と保護者、教師と生徒、そういうチームワークは必要ですね。

理：倉橋先生が仰ったように、受験勉強には暗いイメージがないわけじゃないと思うんですね。ただ、やっぱり一緒に頑張って一生懸命努力をしてくれる先生や、高い志を持って協力し合う友達と共にその時期を過ごすということは大きいと思うんですね。友達の高けければ高いだけ啓発されるし。そして、自分が本当に困った時に助けてもらうことの大切さ、その中で生き方というものを学ぶんだと思うんですね。確かに仰る通り、そういう部分を明るく前向きに捉えるのは大切じゃないでしょうかね、本当に。

倉：それから、「大学受験が全てじゃない」ということです。大学入学後、そして世の中に出てからも勉強は続くわけですから、その礎になるような勉強の仕方ってものを身につけて卒業してほしいですね。さらにその上で希望の大学に受ければ最高にいいじゃないですか。



倉橋 義郎

理：自分が世の中に出て社会貢献をするんだという時、まず手段を得なければ出来ないんですね。どんなに高い志を持っていても、お医者さんでもそうですよね。病気で人が亡くなっていくのを何とか助けたいという志を持

っても、お医者さんになるという手段を持たなければ出来ないんです。だから、生徒達の持っている能力を一杯伸ばしてあげるといのは非常に大事なことだと思います。その能力を、何のためにどのように用いることが大事かということ併せて教えられるれば、人生が明るくなる。だから、受験勉強を負の要素として見るんじゃなくて、プラスの要素として見ていくというのは大事だと思いますね。

校：今先生方は、全員で新しい価値観を見いだしているところです。先ほど倉橋先生が言われたことと繋がるわけですが、本来ならクラ・ゼミさんが入ったらアレルキー反応を起こす善だった集団が、謙虚に、お互いに学び合いますよ、いや、私たちが学ばなければいけないことで、全然そういう波風がなかったんですね。理事長が今心配されたような古い価値観を私たちがもう捨て去っていて、生徒を中心に考え、そのためにはまず謙虚であらねばならないと、お互いに切磋琢磨して自分たちに欠けている所を少しでも膨らませていくこと。



秋葉 保

理：それから倉橋先生から伺ったのは、私学対私学という発想を超えて、公立対私学であるべきだと。公立は生徒達の持っている能力を一杯発揮できるように、十分な成果を上げている

とは言えない。愛知県のD高校は一校で浜松北+静岡+沼津東高校をしのぐ東大入学の実績を残しているの聞きました。その役割を私学だったらできるんじゃないかと。聖職にその可能性を見いだして下さったことは誠に光栄です。私共も私学のこういう分野を開拓して実力を付けたら、公立と私学が両方存在する意味を見いだすことが出来るのではないかと。その思いを強くしましたね。良いことを教えていただきました。

倉：もう一つ重要なことは、私立は私立独自の運営方針、生徒をどういう風に育てたいんだってということが第一にないといけないですね。僕は、教育は一方的に教えるということじゃなくて、共に学び合う場だと思つたんです。本当に出来る生徒ってというのは一方的に知識を覚えていけるのではなく、その問題を自分なりの考え方で捉えています。そんな生徒の養成をこの学校の特色の一つとして、世間に訴えていったらどうだろうと。教師も皆それに対して応えたいと思つているし、案外早くそれが実現できるのではないかと思っているのがこの二ヶ月の感想ですね。

校：ずっと日本の学校教育というのは「知識偏重教育」、知識を伝えるということが主たる目的としてあった。しかしそれで二十一世紀に活躍するであろう人材育成には全く歯が立たない。「啓発教育」、それが今強く言われている。教育の基本的な考え方や手法を全部変えた形で、いわゆる啓発をする。生徒の中に潜在しているものを引き出す、それが今我々に問われている教育の一つの形態じゃないかと。それを今

うちはまさにやりつつあると思えます。

副：古い一方的な授業ではもう駄目ですよ。生徒も変わってきてますし。ある面では、先生は生徒に教わる所がある。授業の展開方法でも。多くの先生方は気が付くんですね。そういうことがないと、いつも同じ様なことをやっていて、試験の結果にも自然にあらわれて来る。だから試験は生徒の評価であると同時に、先生の評価でもあると思うんです。だから、十分生徒を理解した上で、工夫した授業が必要なのかなんです。又定期試験問題を作成するにも神経を注ぐことが大切です。



鈴木基夫

倉：予備校の教師と学校の教師って、何処が違つたかって、根が違つ、ルーツが違つような気がするんですね。学校の教師はその学校の方針に従って生徒を教え導いていく考え方がベター。我々は大学で出された問題をもとにして、それをどうやって生徒達に早く分からせるか、という発想がベースになつてくるような気がするんですね。しかし一歩進んで考えると、それでは駄目なんです。問題を解くテクニクや解き方を提供しても駄目なんです。テクニクは自分で開発できればそれは最高にいいですね。結局は生徒主体、生徒がまず第一に自分で考える。そこに教育機会が生まれる。そういうことではないでしょうか。そういう意味で

学校と予備校とは生徒を通じて結びあつていなくては行けない。

校：まさしく今、双方が研鑽し合つているという段階じゃないでしょうか。必ず良いものをお互いに見いだしていけるように、また見いだして欲しいと思つています。

倉：正直、全体をトータル的に考えてみて、本当に良い高校になりそうだな、また良い高校にしたいという気持ちはすごくあるんです。良い高校というのは、明るい雰囲気でお互いを啓発するよつな。

理：それとね、新しい高校制度っていうのが出来てほしいと思つたんですね。今までは学校の規則に当てはめてしつけをしつかりすれば社会的に良いって評価されるというのが主流だったと思うんですね。これからの高校制度というのはね、自由さを満喫しながら新しい若者像、新しい青年像を作っていくという、そういうものが出来てくると良いと思つたんですね。そういう意味で、長期留学コースがこの学校の空気を作り出したり、国際交流で向こうから来た生徒を受け入れる中で、日本の既存の学校の有様を超えた、新しいものが生まれるというのとも良いと思うんですね。僕はね、学校の中でいくつかの選択肢を作っておいて、どれを選択してもいいよというのが非常に大事だと思つたんですね。それで学校の中でそういう選択をさせる。できるだけそういうチャンスを作つてあげたいし。考えるレベルと、自分の関心のある焦点が合ったと思える所で、自分自身の方向を自分で選択する、多分そつじつと行かないかという気がするね。

大学校舎増築計画及び高等学校校舎全面移転計画について

法人事務局長 堀口 路加

聖隷学園中長期経営計画の概要

聖隷学園は二〇〇六年度までの中長期経営計画の中で、二〇〇二年四月に社会福祉学部を増設し、その第一期生が卒業する二〇〇六年度に高等学校校舎を全面移転させる計画でしたが、高等学校校舎の全面移転時期を二〇〇三年九月に変更することになりました。

高等学校校舎移転後は、大学・短期大学・専門学校・高等学校が密集する現在のキャンパスを聖隷クリストファー大学及び聖隷クリストファー大学看護短期大学部いずれも二〇〇二年四月から校名変更予定)のキャンパスとして再開する計画で、現在まで順調に準備が進んでいます。一九九九年度決算をもって社会福祉学部増設に必要な創設財源の見通しが立ち、二〇〇二年四月開設に向けていよいよ文部省への認可申請に臨みます。但し、社会福祉学部の認可申請手続きは、文部省の省令変更により二年審査から一年審査に変更されたため、今年九月に予定されていた第一次申請は二〇〇一年四月に行います。既に社会福祉学部増設の構想と趣旨、教育課程がほぼまとまり、現在は介護実習、社会福祉援助技術現場実習及び精神保健福祉援助実習の他、インド最南端のケララ州にある知的障害児者教育施設「聖隷希望の家」、ブラジルサンパウロ州にある重度心身障害者療養教育施設「ブラジル希望の家」、

韓国の障害者関係施設、高齢者関係施設をはじめとした海外の福祉施設で予定している国際福祉実習など、各種の実習計画の検討が進んでいます。

高等学校校舎の全面移転計画は、移転用地の取得交渉や農用地除外、農地転用等の手続きの進み具合にもよりますが、前述の通り当初の計画を早め二〇〇三年八月には新校舎を竣工させ、二〇〇三年九月からは新校舎で教育活動が始められるように願っています。

大学校舎増築・改修計画概要

当面の計画としては、二〇〇〇年一月に大学校舎増築工事に着手し二〇〇一年一月末竣工をめざします。大学の増築校舎は地上七階建て、延べ床面積四、〇〇〇㎡程度(既設の大学校舎面積は九、二〇四㎡)になる見込みで、一粒社ヴォーリス建築事務所による実施設計に入っています。

この増築校舎竣工後には既設校舎の一部改修工事に着手する予定です。社会福祉学部開設後は、既設校舎、増築校舎ともにそれぞれの学部特有の看護実習室、介護実習室を除き、原則的に看護学部と社会福祉学部の共用校舎として使用していくこととなります。既設校舎の学生ホールは増築校舎一階に拡張移転し、現在の学生ホールは二階図書館とつなげて図書館スペースの拡

張を図る他、大学院自習室を既設校舎一階部分に移す計画です。又、地階は全フロアをロッカー室に改修します。社会福祉学部開設後二年目には現在の介護福祉専門学校の校舎を学生生活支援センター棟に改修し、学生サービスセンターや健康管理センター、クラブ室等に転用します。

社会福祉学部開設にあわせて大学、短期大学の名称を変更することはこれまで度々触れてきましたが、名称変更のみならず、看護学部の学生、看護短期大学の学生が社会福祉学部の学生と共に履修できる共通科目を盛り込んだ教育課程の変更や三つの学部へのゼミスター制の導入など各種制度改革、組織改編も検討が進められています。

高等学校校舎移転計画概要

高等学校校舎の設計に向けた準備作業は昨年度からスタートしており、新校舎のイメージと質的な感覚をつかむ意味で、既に全国の私立高等学校の内から、「特色ある教育を行っている学校」、「進学実績においても運動部活の実績においても全国的なレベルにある学校」、「この二、三年以内に校舎を改築した学校」という条件を満たす八校を選び出し、高等学校教員を中心に手分けして視察しました。二〇〇〇年度に入り五月から一粒社ヴォーリス建築事務所との間で集中的に建築会議を重ねています。

現在、新校舎建築に伴う周囲に対する影響や種々の規制、将来的な土地利用計画を踏まえて、校舎の配置を決めたところです。現段階における高等学校校舎のイメージですが、規模とし

ては、地上七階建ての高層校舎で床面積は約一〇、〇〇〇㎡、冷暖房設備を完備し、各教室はLANで結びインターネットに常時接続する他、視聴覚機材を備えつけます。通常のホールルームの他に、習熟度別授業に対応するための学習室を整備するとともに、個人の学習スペースを確保するために自習室を従来以上に重視し、学習意欲を向上させる環境を整えます。この他にメインアリーナ、サブアリーナ、クラブ室を備える約三、〇〇〇㎡程度の体育館(二階建て)を建設する計画です。

今回の高等学校校舎移転設計コンセプトには、「学校は勉強する場であると同時に、生徒が朝早くから夜まで一日の大半を過ごす生活の場であり、憩う場であり、語らう場である。」ことをテーマに据え、ゆとりのスペースとコミュニケーション空間を大切にしながら設計を考えていきます。又、新校舎は地域に向けて開放的なスタンスを大切にし、ユニバーサルデザインを念頭に置いた設計、環境にも配慮した設計を考えます。新校舎の規模は聖隷クリストファー看護大学の既設校舎に匹敵する大きさですので、姫街道や金指街道から見ることで、大学校舎とともにツインタワーを形成し聖隷学園の象徴となるような校舎としたい考えもあります。

高等学校校舎全面移転にあわせて運動場施設も改めて整備し、全天候型テニスコート(オムニコート)、六面とフットサルやバスケットコートとして利用できるミニコートを作る計画です。ランニングコースを作る計画です。

高等学校校舎移転用地ですが、新たに約一七、〇〇〇㎡の土地購入を予定

しており、高等学校校舎建築費を合わせて約三〇億円の事業費を見込んでいます。今後、二〇〇〇年十一月までに新校舎の基本設計をまとめ、その後詳細設計に入り、二〇〇一年七月には運動場施設整備工事施工業者とあわせて新校舎建築工事施工業者を決定します。運動場施設整備工事の着工時期は二〇〇一年一〇月頃、新校舎建築工事の着工は二〇〇二年度早々となるよう目標を定め、今後の手続きを進めていく計画です。

高等学校校舎移転後の計画

高等学校校舎移転後は、高等学校南校舎(現在のグラウンドに面した二階建て校舎)を改修して、法人事務局及び大学の事務管理組織を移転集中させます。さらに、現在の武道場の躯体を利用してこれを当面のチャペルに改修する他、高等学校特別教室棟を看護短期大学の校舎として転用改修しながら、できる限り早い時期に看護短期大学の校舎の改築、総合図書館の建築につなげられるよう計画を練っていきたいと願っています。

大学校舎の増築、高等学校校舎建築設計、その後の大学・短期大学のキャンパスの再開など、広くご意見をお聞かせしたいと思います。是非ご意見ご希望をお寄せ下さい。



INFORMATION

1999年度決算、2000年度予算について

単位千円

科目	消費収支計算書 自 1999年4月 1日 至 2000年3月31日						消費収支予算書 自 2000年4月 1日 至 2001年3月31日					
	法人	大学	短期大学	高等学校	専門学校	合計	法人	大学	短期大学	高等学校	専門学校	合計
学生生徒等納付金	0	777,015	458,960	300,912	171,900	1,708,787	0	742,090	437,365	356,936	173,400	1,709,791
手数料	0	28,374	16,631	14,398	3,823	63,226	0	22,550	17,100	12,100	2,800	54,550
寄付金	11,001	3,181	2,201	1,174	342	17,899	0	2,000	1,000	1,000	0	4,000
補助金	0	152,509	93,374	255,262	3,529	504,674	0	149,565	82,473	261,558	3,400	496,996
資産運用収入	61	5,892	6,085	3,202	1,593	16,833	0	6,200	5,800	4,000	1,800	17,800
雑収入	1,094	31,090	11,209	26,974	2,488	72,855	0	4,228	2,710	1,500	800	9,238
繰戻収入合計	12,156	998,061	588,460	601,922	183,675	2,384,274	0	926,633	546,448	637,094	182,200	2,292,375
基本金組入額	956	77,024	18,233	33,325	3,199	132,737	0	8,783	88,898	90,868	975	189,524
消費収入計	11,200	921,037	570,227	568,597	180,476	2,251,537	0	917,850	457,550	546,226	181,225	2,102,851
人件費	49,517	589,259	397,359	423,135	70,553	1,529,823	59,447	594,469	373,421	393,588	73,826	1,494,751
教育研究経費	0	244,933	98,579	81,731	20,860	446,103	0	259,450	103,767	115,677	21,747	500,641
管理経費	25,100	37,803	22,615	19,230	9,152	113,900	20,990	37,702	24,312	22,394	9,350	114,748
借入金利息	0	0	10,283	11,073	0	21,356	0	0	9,647	9,537	0	19,184
資産処分差額	0	6,397	1,053	485	9	7,944	0	0	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0	0	0	0	4,200	2,600	2,900	800	10,500
消費支出計	74,617	878,392	529,889	535,654	100,574	2,119,126	80,437	895,821	513,747	544,096	105,723	2,139,824
当年度消費収入超過額						132,411						36,973
前年度繰越消費支出超過額						859,869						727,458
翌年度繰越消費支出超過額						727,458						764,431

1999年度 消費収支計算書

1999年度決算の結果、2001年4月の社会福祉学部増設認可申請に必要な財務上の条件が整いました。1999年度は収支差額及び基本金組み入れ額200,670千円を学部増設のための財源に組み入れました。学園は社会福祉学部増設に続き、2003年9月の高等学校新校舎竣工を目指しており、1999年度決算を境に今後は高等学校全面移転に向けた資金調達と借入金返済計画に視点を移していきます。今後、2000年度から2003年度には大学校舎増築費、高等学校新校舎移転用地取得費・建築費等大きく資金が動くことになり財務諸表には特異な数値がでてきます。

2000年度 消費収支予算書

2000年度消費収支予算は36,973千円の支出超過予算となっています。高等学校新校舎建築の新たな借入金に備えて借入金残額131,330千円を一括返済することが要因です。主な施設・設備充実計画では、高等学校校舎全教室の冷暖房化のために42,000千円を計上しました。収入財源の約7割が学生生徒等納付金です。「どのような目的で」、「どの事業にどれだけの投資をするのか」を明らかにし、事業の費用対効果を正確に測定・評価して、政策的、重点的、効率的な予算配分をすることが重要課題です。このために新たに事業別予算管理制度を導入し、来年度から公表していく考えです。

「満足度調査結果を基に改善・改革」

学園は高い評価に対しては、いかにこれを維持していくか。また、評価が低いものに対しては、真摯にこれを受け止め、改善・改革を積極的に実施していくために、校内に研修チームを結成し、調査項目毎に改善・改革のレベル分けをして、すぐに対応できるものについては直ちに実行し、対応できない場合はその原因分析を行い、問題点の解決にあたっていきます。近い将来は、解りやすい授業科目、解りにくい授業科目を公表し、授業改善に活用するための準備をしていきます。

本年度は改善・改革の一つとして、特に満足度の低かった校舎の環境整備を改善するために、全教室に空調設備を設置します。これは満足度調査を実施した当初からの強い要望でしたが、二〇〇三年九月に校舎の全面移転を計画していた

聖隷学園は、一九九四年から学校生活に関する事柄約九〇項目について、生徒の「満足度」という指標により点検・評価を行うことで、生徒の考えを可能な限り把握すると共に、それらを学校経営や学校運営に積極的に反映させていくことを目的に、卒業学年を対象に調査を実施しています。この調査は学校法人が直接実施しますので、生徒は教員を意識することなく回答することができ、率直な意見を聴くことができます。高等学校の調査結果を見たとき、特に満足度の高いものには、希望する上級学校への進学や、労作の体験授業、研修旅行、部活動等に高い評価を得ています。反対に評価が低いものには、校舎が古いことからくる不満や、規制に対する不満があり、自由記述の多くも同様でした。

学園は高い評価に対しては、いかにこれを維持していくか。また、評価が低いものに対しては、真摯にこれを受け止め、改善・改革を積極的に実施していくために、校内に研修チームを結成し、調査項目毎に改善・改革のレベル分けをして、すぐに対応できるものについては直ちに実行し、対応できない場合はその原因分析を行い、問題点の解決にあたっていきます。近い将来は、解りやすい授業科目、解りにくい授業科目を公表し、授業改善に活用するための準備をしていきます。

本年度は改善・改革の一つとして、特に満足度の低かった校舎の環境整備を改善するために、全教室に空調設備を設置します。これは満足度調査を実施した当初からの強い要望でしたが、二〇〇三年九月に校舎の全面移転を計画していた

ため、実施が延び延びになっておりました。しかしながら毎日の教育活動の主体は生徒であり、その生徒が一日の大半を過ごす学校を、できるだけ快適に満足して過ごすことができるよう、改善することになりました。

また、学校内の規制をできるだけ少なくし、生徒が自主的に判断して問題解決にあたることができる力を養っていきけるよう、特に生命に関わることでないものについて規制を緩和していきます。先ず今年度は、校内の履き物を自由化しました。つまり土足でもよいことにしました。土足に踏み切る前、様々な問題が考えられましたが、スタートして二ヶ月が経った現在、大きな問題もなく、かえって下足箱が不要になりましたので、撤去した昇降口に広い空間ができ、ここで昼休みには学生食堂からの弁当の出張販売をする場所も確保できるといって、土足化による副産物も生まれ、さらに効果的な利用方法も検討中です。土足化への対応としては、清掃方法もこれまでの雑巾がけから、掃除機とモップを使用した清掃へと変えました。

これまでのように、校門から入り、昇降口から上がるといって、何箇所かある出入口から自分が一番便利なところを選択して出入りしています。今後、梅雨時の様子を観察し、より快適で安全な環境を提供していく考えです。

高等学校全面移転の際は、今の経験が十分反映された校舎になっていくはずですが、今、生徒も教師もそのためのリハーサル期間と捉えていますので、気がついた意見をどしどしお寄せください。生徒・保護者の皆様のご意見を、新校舎建築に十分生かして参ります。

今後も、この調査結果を尊重し、生徒一人ひとりが、より高い満足感を得られるよう、改善に努めたいと考えます。

ご協力いただいた卒業生の皆さん、皆さんのご意見が後輩のために役立っています。

何をすることも相応しい「時」があります。子供が産まれるに、学ぶに、遊ぶに、また、老いて死すに、全ての人がそれぞれに相応しい「時」が用意されています。労作の授業で収穫された作物を見ると、学校農園で種をまき、育てていく過程の一つひとつに相応しい「時」が用意されていたと思わされます。

中庭のケヤキの木が校舎をはるかに越え、りっぱな大木になり鳥達が羽を休ませるほどに枝を張っています。高校の歴史を見つめて、六千人の卒業生とそれぞれの「時」を共有してきたかと思うと、この木が妙にいとしくさえ感じられます。

第二十三号学園報は高校特集とさせていただきます。継承すべきもの、改革・変更していくもの、今、まさに真価が問われる大切な「時」と考えています。

多くの生徒を迎え早三ヶ月が経ちました。私たち教職員は、「一人ひとりの生徒の幸のために」一杯のお手伝いをさせていただき、日頃お気づきのこと、また、学園報をお読みいただいたご感想などを寄せいただければ幸いです。

(N・A)

編集後記